

【R6:情-4】（仮称）道の駅「出水」における需要予測・経済波及効果調査 （実施主体：鹿児島県出水市）

出水市基礎情報（R7.1.1時点）
・人口：5.1万人
・面積：330km²

【事業分野：道の駅】【対象施設：道の駅】【事業手法：PPP手法（DBO方式）等】

調査のポイント

- ・南九州西回り自動車道（以下「西回り道」という。）の暫定・全線供用別に、西回り道利用者と地域住民利用者需要の両面から、需要予測を行う。
- ・道の駅の運営に係る民間事業者の参画を喚起するため、開業後ピーク時、安定期、減少期など、時期による需要アプローチや出水市における観光シーズン時における需要を捉えた、確度の高い需要予測と経済波及効果を推計する。
- ・飲食部門を直営またはテナントで運営する場合のパターン別収支シミュレーションを実施する。

調査概要・前提条件

本市で整備する道の駅の立地条件、導入機能及び他都市の道の駅事例等を踏まえ、DBO方式を前提とした需要予測等を行う。

●需要予測

西回り道は暫定的かつ段階的な供用となるため、状況に応じた将来交通量を用いて需要予測の数値を推計する。

本道の駅は、令和10年度に開業を予定しており、開業時の将来交通量は、暫定

2車線で部分的に供用となることから、道路交通センサスの現況交通量ベース及び全線開通時の将来交通量推計値の3段階で需要予測を行う。

●収支シミュレーション

収益部門と公益部門に分けてそれぞれ部門ごとに試算する。また、損益分析では、飲食部門を直営とテナント運営の別で算定した。

さらに、長期シミュレーションは、15年間、減価償却対象資産の、耐用年数終了後の修繕を想定し、初期投資の50%とする条件で算定した。

●経済波及効果の算定

本事業による経済波及効果については、本道の駅の整備による開発投資及び事業活動による効果の各々を算定した上で、全体の効果を算定した。需要額の割振りは表3のとおり。

表1 将来交通量の推計

阿久根川内道路	将来交通量	備考
暫定2車線 （部分供用）	7,800台/日	『供用済み区間のR3道路交通センサス／供用前の将来交通量×（仮）出水北IC～出水ICの将来交通量』で算出
	10,800台/日	水俣IC及び出水ICのR6の年間交通量から算出した日平均値『（水俣ICの交通量＋出水ICの交通量）／2』で算出
完成2車線 （全線供用）	13,700台/日	R12将来交通量推計（H27年道路交通センサスベース）

表2 部門の設定

部門（大分類）	部門（小分類）
収益部門	農林水産物販売
	土産品販売・特産品販売
	飲食部門
公益部門	シャワールーム、多目的室、屋根付き広場、EV充電施設

表3 産業連関表への割振り

分野	産業連関割振	需要額 （千円）	主な経費項目
開発投資	001耕種農業	8,971	工事費（植栽）
	063建築	1,224,660	設計費、工事費 等
	065公共事業	2,570,521	工事費（駐車場） 等
	067電力	15,796	工事費（太陽光発電装置）
	081倉庫	18,790	工事費（防災備蓄倉庫）
	計	3,838,738	
事業活動	001耕種農業	6,064,772	農林水産物販売
	016農産物保存食料品	6,040,561	土産品販売・特産品販売
	067電力	81,197	EV充電施設
	074不動産仲介及び賃貸	9,634	多目的室、屋根付広場
	102飲食サービス	1,863,157	飲食部門
	103洗濯・理容・美容・浴場業	10,695	シャワールーム
	計	14,070,016	

目的・これまでの経緯

【目的】

- ①鹿児島県のゲートウェイとして、西回り道の開通効果を地域全体へ波及させる「地方創生拠点」
 - ②地理的特性と西回り道から直接アクセスできる利便性と機能性を活かした地域全体の広域的な「防災・防疫拠点」
- ・本調査では、①及び②の機能を有する本道の駅の維持管理・運営に関して参画意欲のある民間事業者に対するインセンティブを付与するため、確度の高い需要予測等を実施したものである。

年度	事業スケジュール
H24	出水市都市計画マスタープランへの位置付け
H26	基本構想策定
H27	基本計画策定
R2	基本計画改定（R5. 4再改定）
R3	出水広域連携・防災「道の駅」整備推進協議会設立
R4	出水市まち・ひと・しごと創生総合戦略への位置付け 地権者・地元自治会・地元地区会等への事業説明会 詳細設計（ランプ・函渠・付替道路）
R5	整備推進協議会の下部組織、地元商工観光・農林水産関係9団体への意見聴取、地元企業向け説明会、 詳細設計（道の駅造成部）、補償物件調査等
R6	民間事業者募集のための現地説明会・事業者説明会を実施
R7	民間事業者募集・選定
R8 ～10	設計・建設～道の駅オープン

【検討体制】

- ・副市長及び関係部長等で構成する「出水市地域活性化施設整備推進本部」と関係部署による「出水市地域活性化施設整備検討プロジェクトチーム」を設置し検討

【R6:情-4】（仮称）道の駅「出水」における需要予測・経済波及効果調査 （実施主体：鹿児島県出水市）

調査結果

1 需要予測の結果

- ・道の駅の売上高は、①将来交通量からのアプローチ、②潜在需要からのアプローチ及び地域特性である③時期（ツル観光）における需要アプローチの合計として算定した。
- ・表4に示す結果のほか、暫定2車線（部分供用時：現況交通量ベース）10,800台/日想定、暫定2車線（全線供用時：推計値ベース）13,700台/日想定の結果も算定した。

2 収支シミュレーションの結果

(1) 施設利用者数の増減による損益分析

- ・年間施設利用者数が増減した場合における損益分析を図1に示す。

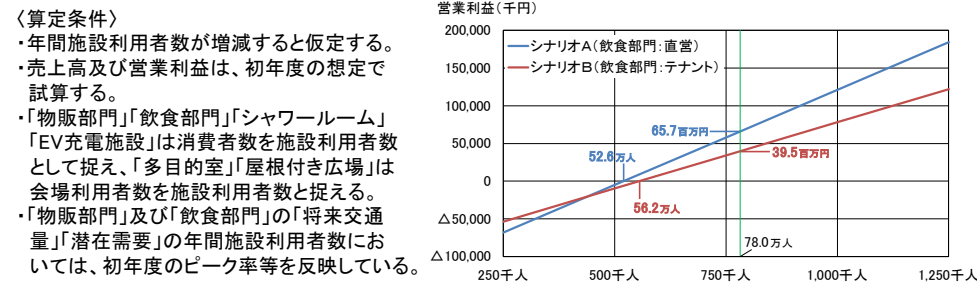


図1 年間施設利用者数の増減による損益分析

3 経済波及効果の算定結果

- ・「経済波及効果分析ツール」を用いて算定した結果、全体として経済波及効果は約100億円、雇用者誘発数は約1,000人となった。算定結果を表5に示す。
- ・本道の駅への開発投資により、市内には約50億円の総合的な経済波及効果が想定され、雇用者誘発数についても約320人の雇用が期待できる。
- ・本道の駅の事業活動により、市内には約49億円の総合的な経済波及効果が想定され、雇用者誘発数についても約680人の雇用が期待できる。

4 地域振興方策の定性評価

- ・本道の駅の整備により、地域全体の情報発信機能やアンテナショップ機能等が備わるといった直接効果が創出され、それを受けて来訪者数の増加や地域ブランドの開発・強化等の間接効果の発現が期待される。
- ・地域社会振興や観光振興等の各側面からの直接的な効果に加え、地域社会や産業の課題解決などの間接効果創出により、本市のみならず周辺市町も含めた地域社会と経済の活性化につながる事が期待される。

表4 暫定2車線（部分供用時：推計交通量ベース）7,800台/日の場合

項目	飲食施設 年間売上高（千円）	物販施設 年間売上高（千円）	合計（千円）
将来交通量からのアプローチ	62,098	507,412	569,510
潜在需要からのアプローチ	36,894	111,483	148,377
時期における需要アプローチ	3,350	18,306	21,656
合計	102,342	637,201	739,543

(2) 長期シミュレーション結果

- ・長期シミュレーション結果を図2に示す。

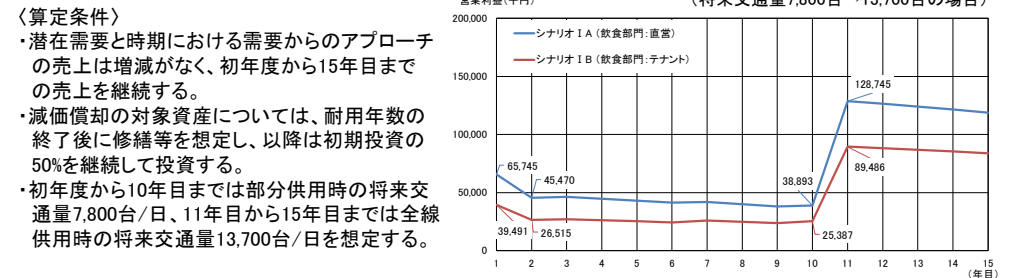


図2 長期シミュレーション結果（営業利益）

表5 経済波及効果の算定結果

分 野	効 果	生産誘発額 (千円)	粗付加価値誘発額 (千円)		雇用者 誘発数 (人)
				雇用者所得誘発額	
開発投資	直接効果	3,810,774	2,048,490	1,090,571	187
	1次間接効果	669,972	400,870	146,626	48
	2次間接効果	548,692	286,058	149,046	90
	総合効果	5,029,438	2,735,418	1,386,243	325
事業活動	直接効果	3,846,034	2,247,993	819,475	563
	1次間接効果	659,559	387,797	159,659	48
	2次間接効果	434,242	226,391	117,957	71
	総合効果	4,939,835	2,862,181	1,097,091	682

事業化に向けた今後の展望

【今後のスケジュール（予定）】

R7年度

- ・用地協議
- ・アドバイザー業務（事業者公募、事業者選定ほか）
- ・ランプ部、敷地造成等土工工事

R8～10年度

- ・建築設計・建築工事
- ・舗装・外構・附属施設等工事

R10年度中

供用開始（予定）

【事業化にあたっての課題】

- ・需要予測等の結果を踏まえた事業規模・導入機能に関する事業者との調整
- ・事業者の採算性の確保等を踏まえた柔軟な運営の検討支援
- ・官民のリスク分担・事業費負担等の官民の調整